

# 高市政権の知財戦略：米中特許「空白域（ホワイトスペース）」への活路

2026年、高市政権は日本の成長戦略として「戦略17分野」を特定。米中が特許を押さえていない「空白域」を可視化し、官民投資を誘導することで、経済安全保障の確保と日本の技術的優位（不可欠性）の確立を目指している。

## 知財戦略を支える「3本の柱」



### 戦略17分野への集中投資

IPランドスケープにより、米中が占有しない「空白域」へ官民投資を誘導。

### 無形資産の時価総額比率50%超へ

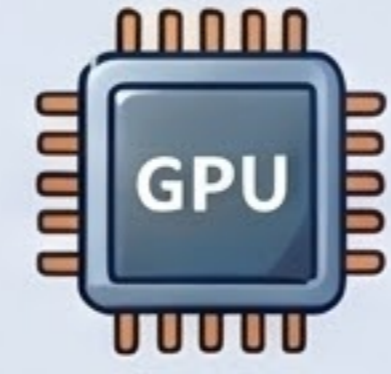
2035年までに日経225企業の無形資産価値を半分以上にする目標。

### 経済安全保障とAIガバナンス

特許出願非公開制度の運用や、法的拘束力のないAIプリンシプル・コードを導入。

## 日本が勝・勝機を見出す「空白域」の構造

米中半位性  
生成AI出願量、先端GPU



日本の強み(空白域候補):  
フィジカルAI、アナログ半導体

資源・エネルギー  
米中の優位性: 太陽電池(中)、水素(米)



日本の強み(空白域候補):  
ペロブスカイト太陽電池、グリーン鉄

マテリアル  
米中の優位性: レアアース処理(中)



日本の強み(空白域候補):  
重レアアース削減磁石、AI複合新素材

日本が狙うべき「実装層」の強み  
日本が元々強い領域に活路。

素材

フィジカルAI

精密機械

電池

米中が支配する「プラットフォーム層」  
AI・量子・宇宙に集中投資し、巨大な特許ポートフォリオを形成。

米中が支配する「プラットフォーム層」  
AI・量子・宇宙に集中投資し、巨大な特許ポートフォリオを形成。

